

## 生徒会執行部のことば



### 一年間を振り返って

生徒会長 五年一組 後藤 颯斗

今年度は「翠」というスローガンのもと、生徒会執行部六人と共に一年間活動してきました。感染症の影響により例年通りの活動を十分に行うことができませんでした。生徒会関係に設置したアンケートで募集した生徒の皆さんの意見や提案に応じながら、可能な範囲で例年の活動に工夫を加えて活動してきました。すべての活動を完璧に行うことはできませんでしたが、一つ一つ反省をし執行部内で共有することで次の活動に活かしました。

私が最も大変に感じたのは活動が制限される中で、どの程度までその範囲を広げることができるのかを考えることでした。全校生徒の皆さんに楽しんでもらえるように運営することは勿論のこと、活動の範囲を見定めることは多くの話し合いと時間を必要としました。そのような中で、一年間活動できたのは、私たちの活動を支えてくださった先生方、全校生徒の皆さん、保護者の皆さんのお陰であり、心から感謝しています。

最後に、来年度の執行部の皆さんに私からのメッセージとして「天然痘」という感染症を思い、右目を失明しながらも見事な活動を見せた伊達政宗の言葉をのこしたいとおもいます。

「物事、小事より大事は発するものなり。油断すべからず」



## 生徒会で学べたこと

前期生徒会副会長 三年一組 藤川 姫里

生徒会に入ってから今日までを振り返ってみると、六煌祭、球技大会など、色々な行事を経験しているうちに、人として成長できました。また、生徒のみなさん、先生方、生徒会のメンバーなどと交流できてとても楽しく、様々な事を知り、充実した生活を送ることもできました。

私が生徒会に入って良かったと思うことは、自分の意見をしっかりと述べられるようになったことです。先輩方と話すのはとても楽しいし、何より自分の考えが生徒会のメンバーに認められたり、採用されたりすると、もっと頑張ろうという気持ちになりました。その他にもエクセルなど、社会人になってから必要となるパソコン技術などを知るきっかけとなりました。

コロナウイルスが流行し、例年と違う企画をしたり、放課後遅くまで作業したりなど大変なこともたくさんありました。しかし、一生懸命企画した行事をみなさんが楽しんでくれる姿を見て元気をもらうことができました。先生方、全校のみなさん、一年間たくさんのご協力、本当にありがとうございました。

## 学んだ一年

後期生徒会副会長 五年一組 近 栞葉

今年は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため例年通りの行事が出来なかった上に天候にも恵まれないイレギュラーな一年だったと思います。そんな中、私達生徒会執行部を支えてくださった先生方、全校の皆さんには感謝しかありません。本当にありがとうございました。

私達執行部は、昨年の四月から本格的に活動し様々な行事の運営、提案をしてきました。運営側の仕事をし続けたこの一年は私にとってかけがえのない経験や時間を与えてくれました。特に印象に残った出来事は、自動販売機設置の提案をしたときです。一つの目標に対して多様な意見が出てきたとき、それをどう皆に納得してもらえるのかを考え、まとめるといふ事を実際に行ったという経験は今後私を成長させてくれるものと思います。

また、毎行事ごとに必ず反省会を行うことの大切さを知りました。計画しても出来なくなり、臨機応変な対応を求められる事も多かったけれど前回の反省点を活かしていくことで乗り切れた場面が多くありました。

先生方、生徒の皆さん、生徒会の仲間達のお陰で責任というものがわかり、大変だったけれど楽しく、成長し続ける事ができた一年でした。皆さんには感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。

## 事務局長としての一年間

事務局長 五年一組 富樫 万葉

今年度は前年度に比べて行える行事は増えましたが、密を避けるために例年とは異なる形でした。

六煌祭では、クラスTシャツの作成や新しい種目を一から考えるなどすべきことが多く大変でした。生憎の雨で競技はリレーしか出来ませんでした。みなさんの協力のおかげで無事に本番を終えることができました。

私は生徒会役員であり、委員長でもありました。事務局の人と「生徒会の縁の下の力持ちになる。」というスローガンを掲げ、生徒会を支えてきました。今年度から初めて出来た役職のため、自分のすべきことを探りながらの活動でしたが、事務局長としての形を作ることが出来たと思います。

コロナウイルスの影響で「いつも通り」ができず、何をするにも工夫が必要でした。しかし、生徒会の先生をはじめ、多くの人に助けられました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この一年間で大変貴重な経験をさせていただきました。協力してくださった先生方や生徒の皆さん、本当にありがとうございました。

## 生徒会がくれたもの

書記長 三年一組 東山 萌花

私はこの一年間、生徒会書記長として活動してきました。生徒会執行部としての活動は大変なことも多かったですが、貴重な経験になりました。

初めの頃はわからないことばかりで不安な気持ちでした。緊張して話し合いにあまり積極的に参加できず、もどかしい思いもしました。その上、入ったばかりの頃は忙しくても自分から行動できず迷惑をかけてしまいました。しかし先輩方に教えてもらったり、同級生の二人に助けってもらったりして少しずつ慣れていきました。仲間の支えの大きさを改めて感じました。それからは自分ができることは全力で取り組むことを意識するようになりました。

また、今年も新型コロナウイルスの影響で色々な制約がある中で行事となりました。行事の企画・運営は難しく、とても大変でした。これも生徒会の仕事なのかと今までは見えなかった裏方の仕事の大変さに気づかされました。今年の行事はどれも悪天候に見舞われ、思い通りに行かず悔しい思いをしました。しかし、その大変さや悔しさは楽しさに変わっていました。今思えば、六煌祭であの重いスピーカーの準備を毎日したこと、物品が足りなくて学校中探し回ったことも、ルールブックに訂正があったて全教室を回ったこともどれも良い思い出です。

私が生徒会執行部として過ごしたこの一年は、とても充実した有意義なものでした。執行部としての経験は、大きな自信とより成長するための大きな原動力になりました。この一年一緒に頑張ってきた執行部のみなさん、支えてくれた先生方、協力してくれた全校生徒のみなさん、ありがとうございます。あの生徒会室で過ごした一年は一生の思い出です。



## 生徒会で大変だったこと

会計 三年二組 赤島 聡一郎

私は生徒会に入った当初、生徒会の活動を何も知りませんでした。「担任の先生にも勧められたし、貴重な経験だろうからやってみよう」程度の気持ちでした。しかし、生徒会の仕事は想像の何倍も過酷なものでした。例えば六煌祭では、当日の日程や、候補から種目を決め、さらにルールを決めていくなど、とにかくやることの満載でした。他にも各連合の旗期限や、開閉开幕式での演出も考えたりする中で、新競技を創り出すのはハードワークでした。今年は特にコロナウイルス流行の影響で、応援の仕方や既存の種目のルールを変えたり、新しい種目のルールも三密や接触を避けるように作らなければいけなかったりとさらに大変でした。さらには雨天時にどのような動きをするのかも考える必要もありました。普段気にしたこと無かった「運営」の過酷さが分かりました。

そんな大変な生徒会の仕事ですが、学んだり身についたりしたこともたくさんありました。一つはタイムスケジュールの組み方です。行事の運営を通して、どれくらい余分に時間をとっておくか、どこに時間を割くかなどが少しずつ分かってきました。もう一つは人前で話す力です。あいさつなどで人前で話すことが多くなり、あまりあがることなくなりました。

生徒会の仕事は思っていたよりも大変でしたが、学ぶことも多く、とても貴重な体験でした。普通に学校で過ごすだけでは得られない知識や教訓を得ることができたと、何より生徒会で学校を変えていくことはとてもやりがいがあった楽しかったです。

最後に、今まで支えてくださった先生方や先輩方、本当にありがとうございました。

## 六碧祭・創立20周年記念式典

